

『「あかつき」一番星のなぞにせまれ!』

を 読んでくれたみんなへ

2018年7月

みんな、元気ですか？ ぼくは、今日も元気に金星の観測をつづけているよ。

ぼくのかつやくを本にしてもらってから地球では一年がたったけれど、その後もぼくの観測したデータから、ぞくぞくと新しいことが分かっているんだ。

今日は、手紙でその報告するね！

さいしょは、『「あかつき」一番星のなぞにせまれ!』の「おわりに」で紹介したことからだよ。

本の中で、「2016年6月から8月に2ミクロンカメラでとった写真からは、金星の大気の低いところで、風の速さが大きく変わっているらしいことがわかった」って言ったこと、覚えているかな？

じつは、金星の大気の低いところから中ぐらいのところ（45-60km）で、赤道のあたりが最も速くなっているジェット気流が見つかったんだ。2017年8月29日には、この現象に「赤道ジェット」という名前がついたと発表されたよ。金星最大のなぞ「スーパーローテーション」をとく手がかりになることが期待されているんだって。

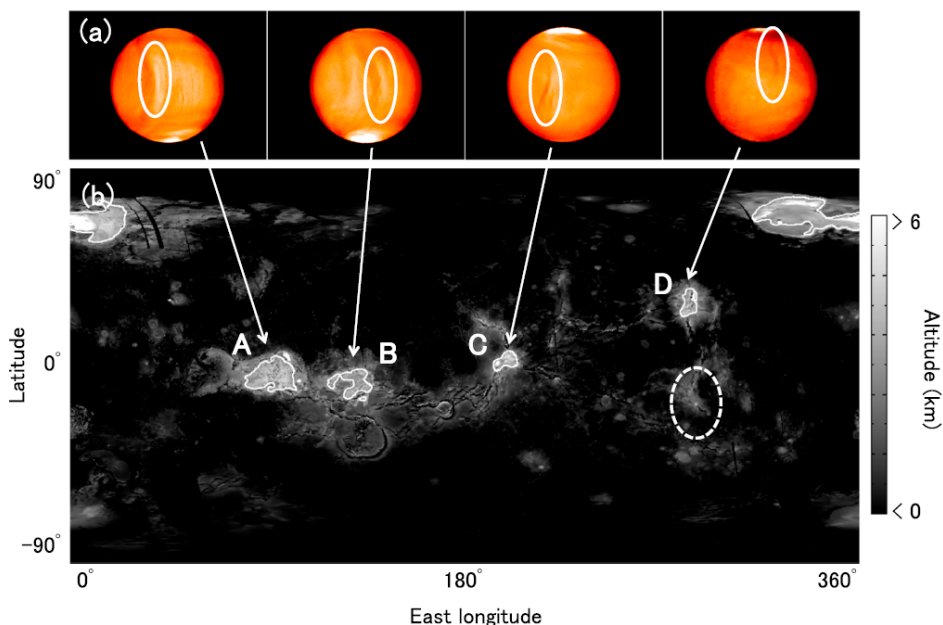
次は、2017年12月23日に発表された「弓状のもよう」の続報だよ。

ぼくが初めて「弓状のもよう」を写真に撮ったのは、2015年12月7日。金星の

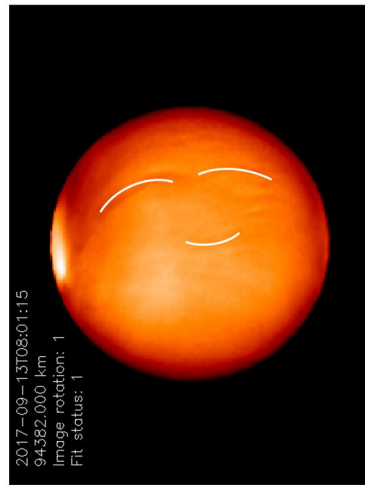
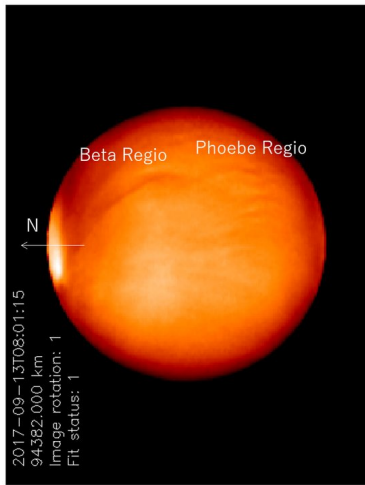
衛星になった最初の日だったっていうことは、覚えてくれている？でも、2016年1月に同じ場所の観測をしたときには、もうなかったんだ。

だから、「弓状のもよう」が現れるには、なにか条件があるはずだと研究者の人たちは考えたんだ。どんな時に「弓状のもよう」が現れるのか、ぼくらは中間赤外カメラ（LIR）で2年以上も観測を続けていたんだよ。そうしたら「弓状のもよう」は金星の大きな山脈の上に次つぎと現れることがわかったんだ。地球の2~3か月に1回ぐらいのペースで、一度出ると1か月ぐらいもようが消えないこともわかったよ。

地球の時間で考えると、どうしてそんなペースなの？と思うかもしれないね。でも、金星の時間で見ると、毎日（金星の1日は、116.75地球日なんだ）お昼から夕方にかけて、大きな山脈それぞれの上空で発生するということがわかったんだ。下の写真（©JAXA）は、A、B、C、Dのそれぞれの山脈の上でできた「弓状のもよう」のようすだよ。



そうそう、この「弓状のもよう」は、いくつかの山脈で同時に現れることもあるよ。



2017年9月13日に撮った写真には、「弓状のもよう」が3つ出ていて、まるで金星がにこにこ顔をしているように見えたんだ。

ぼくのチームの人たちは

「笑顔の金星」って呼んでいるよ。左がそのままの写真で、右は目と口に白いラインを入れてみた写真だよ（©JAXA）。どう？笑顔に見えるかな？

なんだか、金星がぼくに笑いかけてくれているみたいな写真だよ。

最後は、写真で紹介はできないけれど、2018年5月2日にぼくが観察したばかりのことを紹介するね。

地球で「ブロッキンの虹」とか「グローリー」って呼ばれる光の輪が、金星でも見えているんだ。太陽の光が、雲のつぶに当たってできる虹の輪のことで、この見え方で雲つぶの大きさとかがわかるんだって。

地球では、高い山のでっぺんや飛行機に乗っているときに、運がいいと見ることができるとい。見ている人の影が虹の中に巨人みたいに写り込んだりするから（飛行機の場合は飛行機の影）、「ブロッキンの怪物」なんて呼ばれ方もしているんだって。

金星の「ブロッキンの虹」も、近いうちに写真で紹介できるといいなあ。

ぼくの1年間のかつやく、どうだった？

これからも、ぼくの撮った写真から、金星のなぞがどんどん解けていくと思うんだ。

ぼくのかつやくは、「あかつき」特設サイトで、これからも紹介していくよ！

みんな、これからもぼくのおうえんをよろしくね！

金星気象衛星「あかつき」より